

1 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産



図1 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産

2 備前焼を生み、栄えるまち



図2 備前焼を生み、栄えるまち

3 近代漁業発祥のまちと食文化



図3 近代漁業発祥のまちと食文化

4 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観



図4 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観

5 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち



図5 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち

6 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと



図6 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと

7 交流と流通の要となった地



図7 交流と流通の要となった地

第5章 歴史文化基本構想の基本方針

備前市歴史文化基本構想の具体的な将来像「豊かな自然、歴史、文化を活かして幸せに暮らす」を実現させるために次の基本方針を定める。

1 地域文化資源を次世代へ確実に継承

備前市内には閑谷学校、備前焼、瀬戸内海からの海産物、四季折々に美しい山々などがあり、豊かな歴史・文化・自然に恵まれた地域である。それらは備前焼などの窯業をはじめ、現代の生活の中で脈々と息づいている。地域の特色を構成するこれら地域文化資源を、広い視点に立ち関連施策と調整をはかりながら、次世代へ引継いでいくことが重要である。

2 地域文化資源の活用

地域文化資源は次世代へ継承していくことが最も大事である。さらにそれぞれの地域では、ご当地グルメ「カキオコ」を顕著な例として、観光資源、まちづくりのきっかけとして活用していく取り組みも盛んである。これら地域文化資源は、長い時間をかけて形成されたものであり、地域の個性ともいえる。本構想の中で、「地域文化資源が積極的にまちづくりに活用できる仕組みづくりを支援する」方向性を示すことが重要である。

3 情報発信と観光

豊かな歴史、文化、自然は、地域の魅力であり、多くの来訪者・観光客を引きつける資源でもある。それは地域経済へも影響を与える。来訪者視点で地域の人々が新たな魅力作りをじっくり行うことが大切である。魅力的な情報発信を行い、多くの人々が来訪し、新たな交流が生まれることが、地域づくり、まちづくりの起点になる。

第6章 現在までの取組みと課題

1 現在までの取組み

(1) 調査・研究等 【表3】

備前市では、郡誌、町史をはじめ各種の調査研究が行われている。その主なものを次の表3にまとめている。

表3-1 主な町史・郡史関係一覧

年度	郡誌・町史関連	文化財関連	埋蔵文化財関連
明治42(1909)	・和気郡誌(私立和気郡教育会)		
昭和26(1951)	・片上町史(編纂委員会) ・伊部町誌(報道委員会)		
昭和27(1952)			・伊部南大窯址発掘資料 (日本陶磁協会)
昭和34(1959)	・三石町史(編集委員会)		
昭和36(1961)		・備前陶史(備前町教育委員会)	
昭和41(1966)		・重要文化財真光寺本堂保存修理工事報告書 ・重要文化財真光寺三重塔保存修理工事報告書	
昭和46(1971)		・閑谷学校史(刊行会)	
昭和47(1972)	・日生町誌	・重要文化財大滝山三重塔防災施設工事報告書	・不老山古備前窯跡(岡山県)
昭和49(1974)			・東備西播開発有料道路建設事業実施にともなう埋蔵文化財報告
昭和55(1980)		・ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和備前 (図書刊行会)	
昭和56(1981)	・和気郡史通史編上巻(刊行会) ・和気郡史資料編上巻(刊行会)		
昭和57(1982)			
昭和58(1983)	・和気郡史資料編下巻(刊行会)		
昭和59(1984)	・和気郡史通史編下巻I(刊行会) ・吉永町史資料編(刊行会) ・吉永町史民俗編(刊行会)		・亀井戸廃寺確認調査報告書 (備前市埋報2)
昭和60(1985)			・船山遺跡発掘調査報告書
昭和61(1986)			・亀井戸遺跡確認調査報告書 (備前市埋報3)
昭和62(1987)	・日生のあゆみ		
昭和63(1988)			・備前市文化財年報(1) (備前市埋報4)
平成元(1989)			
平成2(1990)	・吉永町史通史編I(刊行会)		
平成3(1991)			
平成4(1992)			
平成5(1993)			
平成6(1994)			

表3-2 主な町史・郡史関係一覧

年度	郡誌・町史関連	文化財関連	埋蔵文化財関連
平成7(1995)			
平成8(1996)	・吉永町史通史編Ⅲ(刊行会)		
平成9(1997)	・吉永町史通史編Ⅳ(刊行会)		
平成10(1998)	・備前市二十年の歩み	・わがまちの文化遺産 (文化協会)	・備前焼紀年銘土型調査報告書 (調査委員会)
平成11(1999)			
平成12(2000)			
平成13(2001)			・船山遺跡(岡山県埋報155)
平成14(2002)	・和気郡史通史編中巻Ⅰ(刊行会) ・和気郡史通史編中巻Ⅱ(刊行会) ・和気郡史通史編中巻Ⅲ(刊行会) ・和気郡史通史編下巻Ⅱ(刊行会) ・和気郡史通史編下巻Ⅲ(刊行会)		・山崎古窯跡(岡山県埋報167)
平成15(2003)			・伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査 報告書Ⅰ(備前市埋報5)
平成16(2004)			
平成17(2005)			
平成18(2006)	・吉永町史通史編Ⅱ(刊行会)		・北大窯跡・西大窯跡調査概報 (備前市埋報6) ・伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査 報告書2(備前市埋報7)
平成19(2007)			
平成20(2008)			・国指定史跡伊部南大窯跡発掘調査 報告書(備前市埋報8)
平成21(2009)			
平成22(2010)		・特別史跡旧閑谷学校保存 管理計画書(岡山県)	
平成23(2011)			
平成24(2012)		・備前市仏像調査報告書	・医王山東麓窯跡群発掘調査報告書 (備前市埋報9)
平成25(2013)			・山崎窯南遺跡(備前市埋報10) ・備前窯詳細分布調査報告書 (備前市埋報11)

(2) 文化財の指定・登録 【表4】

現在の備前市指定文化財一覧は表4のとおりである。

表4 備前市指定文化財件数 (平成25年10月31日 現在)

区 分			国指定	県指定	市指定	計	
指定 文化財	建造物	建造物	7(1)	2	14	23(1)	
		石造美術			7	7	
	美術 工芸品	絵 画		2	4	6	
		彫 刻	1	2	1	4	
		工 芸 品		6	6	12	
		考古資料			1	1	
		歴史資料		1	5	6	
		書跡・典籍・古文書	1		4	5	
		記念物					
	史 跡	4(1)	2	22	28(1)		
	名 勝			3	3		
	天然記念物		1	9	10		
	無 形 文 化 財			1[1]	1[6]	1[9]	3[16]
	民俗文化財	有形民俗文化財					
無形民俗文化財			1	4	5		
選択	伝統的建造物群保存地区						
	選 定 保 存 技 術						
計			14(2)	18	81	113(2)	
登 録 有 形 文 化 財			2			2	

※()内数で国宝、特別史跡、特別名勝を記入
[人] 無形文化財の保持者数を記入

表4-1 備前市指定文化財一覧

【国指定】

有形文化財						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	建造物	大滝山三重塔	1基	T15.4.19	大 内	室町時代(嘉吉元年)
2	建造物	閑谷神社 (旧閑谷学校芳烈祠)	8棟	S13.7.4	閑 谷	江戸時代(貞享3年)
3	建造物	旧閑谷学校聖廟 附聖龕・左右練塀・石橋	11棟	S13.7.4	閑 谷	江戸時代(貞享元年)
4	建造物	旧閑谷学校講堂 附壁書・丸瓦	5棟	S13.7.4	閑 谷	江戸時代(元禄14年) 国宝
5	建造物	旧閑谷学校石塀附飲室門	1棟	S13.7.4	閑 谷	江戸時代(元禄14年)
6	建造物	真光寺三重塔附棟札	1基	S28.11.14	西片上	安土桃山時代移築 (慶長18年)
7	建造物	真光寺本堂附棟札	1棟	S28.11.14	西片上	室町時代(永正13年)
8	彫 刻	木造釈迦如来坐像	1軀	M34.8.2	浦伊部 (妙圀寺)	南北朝時代 (延文3年)の銘
9	典 籍	四座講式	4巻	M34.8.2	(蕃山正樂寺) 岡山県立博物館	鎌倉時代(建保3年)

記念物						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	特 別 史 跡	旧閑谷学校 附椿山・石門 津田永忠宅跡及び黄葉亭		S29.3.20	閑 谷	江戸時代
2	史 跡	丸山古墳	1基	S32.10.11	畠田・福田 香登本	4世紀後半 円墳
3	史 跡	備前陶器窯跡 伊部南大窯跡・伊部西大窯跡・ 伊部北大窯跡	9基	H21.2.12	伊 部	室町～江戸時代
4	史 跡	岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓		H10.4.8	吉永町和意谷	江戸時代

登録有形文化財						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1		閑谷学校資料館	1棟	H13.8.28	閑 谷	明治時代(明治38年)
2		大多府漁港元禄防波堤	1基	H10.1.16	日生町大多府	江戸時代

無形文化財						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	無 形 文化財	工芸技術備前焼保持者 伊勢崎 淳		H16.9.2	伊 部	

表4-2 備前市指定文化財一覧

【 県指定 】

有形文化財						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	建造物	大滝山福生寺本堂	1棟	H15.3.11	大 内	江戸時代(天和2年)
2	建造物	大滝山福生寺仁王門	1棟	H18.3.17	大 内	江戸時代
3	絵 画	絹本墨画白衣観音図	1幅	H4. 4. 3	(蕃山正楽寺) 岡山県立博物館	室町時代
4	絵 画	絹本著色十六羅漢像	16幅	H13.3.23	伊 部 (長法寺)	室町時代
5	彫 刻	木造阿弥陀如来及び 両脇侍像	3軀	H6.4.5	(伊部長法寺) 岡山県立博物館	平安時代後期
6	彫 刻	木造薬師如来坐像	1軀	S34.9.15	吉永町南方 (松本寺)	平安時代後期
7	工芸品	備前焼茶壺	1個	S31.9.25	浦伊部	室町時代 (天文23年)の銘
8	工芸品	備前焼欄間獅子	1対	S34.3.27	伊 部 (長法寺)	江戸時代中期
9	工芸品	梵鐘	1口	S34.3.27	浦伊部 (妙圀寺)	鎌倉時代 (永仁6年)の銘
10	工芸品	備前焼狛犬	1対	S53.4.14	(木谷天神社) 備前陶芸美術館	江戸時代 (貞享3年)の銘
11	工芸品	剣 銘祐定	1口	S55.4.8	(八木山鏡石神社) 岡山県立博物館	江戸時代 (寛文9年)の銘
12	工芸品	太刀 無銘(伝国俊)	1口	S39.12.2	三 石	
13	歴 史 資 料	閑谷中学校関係歴史資料	2999冊 3点	H13.3. 3	閑 谷	江戸時代初期以降

記念物						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	史 跡	閑谷焼窯跡	2基	S34. 3. 27	閑 谷	江戸時代
2	史 跡	三石城跡		S54. 3. 27	三 石	南北朝時代
3	天 然 記念物	住吉島の樹林		S39. 5. 6	鶴 海	ウバメガシの群生地

無形文化財						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	無 形 文化財	備前焼製作技術 各見 壽峯		S55.4.8	伊 部	
2	無 形 文化財	備前焼製作技術 松井 與之		H8.7.30	西片上	
3	無 形 文化財	備前焼製作技術 山本 雄一		H8.7.30	伊 部	
4	無 形 文化財	備前焼製作技術 吉本 正		H19.3.16	閑 谷	
5	無 形 文化財	備前焼製作技術 金重 晃介		H24.3.9	香登本	
6	無 形 文化財	備前焼製作技術 山本出		H24.3.9	伊 部	

無形民俗文化財						
番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	備 考
1	無 形 民 俗	福石荒神社神楽獅子舞	16種類	S61.4.4	三 石	明治時代(明治初年)

表4-3 備前市指定文化財一覧

【市指定】

有形文化財						
番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	備考
1	建造物	神根神社本殿	1棟	S36.2.10	吉永町神根本	江戸時代(寛文10年)
2	建造物	松本寺本堂	1棟	S36.2.10	吉永町南方	江戸時代(享保11年)
3	建造物	天保窯	1基	S46.10.6	伊部	江戸時代(天保3年頃)
4	建造物	御滝山真光寺仁王門	1棟	S46.10.6	西片上	江戸時代(正徳元年)
5	建造物	御滝山真光寺花蔵院正門	1棟	S46.10.6	西片上	江戸時代(元禄14年)
6	建造物	天津神社本殿	1棟	S56.7.24	伊部	江戸時代(延宝6年)
7	建造物	大内神社本殿	1棟	S56.7.24	香登本	江戸時代(元禄16年)
8	建造物	日光山正楽寺客殿及び玄関	2棟	S57.5.26	蕃山	江戸時代(正徳5年)
9	建造物	日光山正楽寺鐘楼	1棟	S57.5.26	蕃山	江戸時代(正徳5年)
10	建造物	日光山正楽寺本堂	1棟	S62.7.28	蕃山	江戸時代(正徳元年)
11	建造物	小幡山長法寺本堂	1棟	S62.7.28	伊部	江戸時代 (安永5年か宝暦2年)
12	建造物	西念寺表門	1棟	H11.3.11	日生町日生	寛永～寛文年間
13	建造物	日光山正楽寺山門	1棟	H13.1.10	蕃山	江戸時代(文化14年)
14	建造物	大滝山福生寺大師堂	1棟	H15.4.10	大内	江戸時代(天和2年)
15	石造美術	松本寺宝篋印塔	1基	S36.2.10	吉永町南方	室町時代中期
16	石造美術	長法寺阿弥陀如来石仏	1軀	S46.10.6	伊部	室町時代かそれ以前
17	石造美術	石造宝篋印塔	1基	S46.10.6	麻宇那	南北朝時代前期
18	石造美術	五輪塔「石小(子)詰の塚」	1基	S52.3.31	吉永町加賀美	鎌倉末期～南北朝時代
19	石造美術	倉吉の板碑	1基	S62.3.26	吉永町福満	鎌倉時代(文永)
20	石造美術	滝谷筆塚	1基	H9.12.8	吉永町多麻	明治28年
21	石造美術	小幡山長法寺石造宝篋印塔	1基	H12.3.1	伊部	南北朝時代
22	絵画	阿弥陀如来画像	1幅	S55.8.12	日生町寒河 (西願寺)	室町時代(文亀3年)
23	絵画	阿弥陀如来画像	1幅	S57.1.21	日生町日生 (西念寺)	室町時代末期
24	絵画	武元登々庵肖像画	1幅	S61.3.26	吉永町吉永中	江戸時代
25	絵画	武元君立肖像画	1幅	S61.3.26	吉永町吉永中	江戸時代
26	彫刻	友延薬師如来坐像	1軀	H15.11.4	友延	平安末期～鎌倉時代
27	工芸品	宇佐八幡宮備前焼狛犬	1対	S46.10.6	西片上	江戸時代(文政9年)の銘
28	工芸品	妙圀寺鰐口	2個	S46.10.6	浦伊部	南北朝時代(康暦2年)の銘 室町時代(永享9年)の銘
29	工芸品	長法寺備前焼花瓶	1個	S52.8.19	伊部	江戸時代 (明暦3年)の銘
30	工芸品	金泥草花紋壺	1個	S57.1.21	(日生町) 加子浦歴史文化館	室町時代
31	工芸品	青江次吉の太刀	1口	S60.1.22	日生町	鎌倉時代末期
32	工芸品	銅鐘	1口	H9.12.8	吉永町加賀美 (八塔寺)	江戸時代

表4-4 備前市指定文化財一覧

番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	備考
33	考古資料	仿製方格規矩鏡及び管玉、勾玉	1面、3個、1個	S46.10.6	(香登本) 歴史民俗資料館	丸山古墳出土品
34	歴史資料	和気郡三石村往還筋家並分見絵図	2巻	S46.10.6	三石	江戸時代(天保9年)
35	歴史資料	田楽板	1枚	S52.3.31	(吉永春日神社) 吉永美術館	鎌倉時代(正和4年)
36	歴史資料	寛文下文版木	1枚	S52.3.31	吉永町神根本 (神根神社)	江戸時代(文久元年)
37	歴史資料	八塔寺制札	3枚	S52.3.31	吉永美術館	室町～安土桃山時代
38	歴史資料	春日神社棟札	30枚	S57.1.21	日生町日生	江戸時代
39	典籍	長法寺大般若経	245巻	S56.7.24	伊部	南北朝時代 (応安2年頃)
40	典籍	大滝山福生寺鉄眼版一切経	1864冊	S57.2.19	大内	江戸時代(延享元年)
41	典籍	萩原玉芝短冊	2枚	H11.5.27	加子浦 歴史文化館	江戸時代
42	古文書	長法寺古文書	1巻	S53.4.21	(伊部) 備前陶芸美術館	中世のもの9点 近世のもの1点

記念物						
番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	備考
1	史跡	山上伽藍八塔寺の旧跡		S36.2.10	吉永町加賀美	南北朝時代
2	史跡	山上伽藍八塔寺の三重塔跡		S36.2.10	吉永町加賀美	江戸時代
3	史跡	野上牛頭天王宮田倉牛神社		S36.2.10	吉永町福満	江戸時代
4	史跡	満願寺の旧跡		S36.2.10	吉永町福満	奈良時代
5	史跡	浦上村宗の塚	1基	S46.10.6	木谷	室町時代
6	史跡	熊沢蕃山宅跡		S46.10.6	蕃山	江戸時代(明暦3年)
7	史跡	香登一里塚	1基	S46.10.6	香登本	江戸時代
8	史跡	坂田貝塚	3基	S46.10.6	鶴海	弥生～鎌倉時代
9	史跡	備前焼熊山古窯跡	17基	S46.10.6	伊部・香登	平安～室町時代
10	史跡	池灘古墳	1基	S46.10.6	大内	6世紀後半 横穴式石室
11	史跡	山田方谷宅跡		S46.10.6	蕃山	明治7年
12	史跡	播備国境の標石	1基	S46.10.6	三石	江戸時代(元禄16年)
13	史跡	天神山古墳	1基	S51.3.21	新庄	4世紀代 円墳
14	史跡	備前西大窯跡	1基	S51.3.21	伊部	室町～江戸時代
15	史跡	大井戸	1基	S55.8.12	日生町大多府	江戸時代(元禄11年)
16	史跡	燈籠堂石塁	1基	S55.8.12	日生町大多府	江戸時代(元禄11年)
17	史跡	キリシタン遺跡	3件	S57.1.21	日生町鶴島	明治時代
18	史跡	甚九郎頭彰碑	1基	S58.2.4	日生町日生	江戸時代(享保19年)
19	史跡	下山龍王山南東麓古窯跡	1基	S62.11.26	伊部	鎌倉時代
20	史跡	首塚	1基	H元.9.19	吉永町金谷	江戸時代中期
21	史跡	井田跡		H元.11.25	穂浪	江戸時代(元禄元年)
22	史跡	伝太閤門跡		H6.4.1	浦伊部	安土桃山時代以降
23	名勝	高取家の庭園		S36.2.10	吉永町神根本	江戸時代中期
24	名勝	大滝山・熊山含滝庭、熊山窯跡		S46.10.6	伊部・大内 香登本	大滝山郷土自然保護地域
25	名勝	深谷の滝		S46.10.6	三石	

表4-5 備前市指定文化財一覧

番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	備考
26	天然記念物	ヒメボタル		S52.3.31	吉永町多麻	
27	天然記念物	金彦神社社叢		S52.3.31	吉永町金谷	
28	天然記念物	椎の樹林		S53.4.21	久々井	
29	天然記念物	コウヤミズキ自生地		S53.12.9	吉永町高田	
30	天然記念物	高良八幡の社叢		'S55.8.12	日生町日生	
31	天然記念物	西願寺のボダイジュ	1樹	S57.1.21	日生町寒河	
32	天然記念物	西願寺のイチョウ	1樹	S57.1.21	日生町寒河	
33	天然記念物	おがたまの木	1樹	H元.9.19	吉永町吉永中 (吉永小学校)	
34	天然記念物	モリアオガエル		H14.2.8	吉永町 加賀美・多麻	

無形文化財						
番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	備考
1	無形文化財	備前焼の製作技術 榊原 清人		H25.10.25	伊部	
2	無形文化財	備前焼の製作技術 佐藤 伊助		H25.10.25	伊部	
3	無形文化財	備前焼の製作技術 柴岡 紘一		H25.10.25	伊部	
4	無形文化財	備前焼の製作技術 島村 光		H25.10.25	久々井	分野「細工物(現代)」
5	無形文化財	備前焼の製作技術 鈴木 黄弑		H25.10.25	伊部	
6	無形文化財	備前焼の製作技術 森 泰司		H25.10.25	伊部	
7	無形文化財	備前焼の製作技術 小西 陶臧		H25.10.25	伊部	
8	無形文化財	備前焼の製作技術 川端 文男		H25.10.25	伊部	
9	無形文化財	備前焼の製作技術 金重 有邦		H25.10.25	伊部	

無形民俗文化財						
番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	備考
1	無形民俗	神根神社獅子舞	12種類	S50.11.20	吉永町神根本	
2	無形民俗	投げ節、車唄		S55.8.12	日生町	
3	無形民俗	春日神社の獅子舞		S60.1.22	日生町日生	
4	無形民俗	寒河踊り		S60.1.22	日生町寒河	

(3) 地域文化資源の活用と観光

現在までに市域内で街並整備・史跡整備は次のとおりである。

① 伊部の街並整備

平成 11 年頃より伊部地区と都市計画部局によって計画、実施された伊部街並整備

②八塔寺ふるさと村 国による面的な整備事業が行われていない時期に岡山県によって独自に進められた保存・整備事業で、昭和 49 年大高下(津山市)、越畑(鏡野町)とともに、ふるさと村整備の端緒。

③日生鹿久居島古代体験の郷「まほろば」 瀬戸内海国立公園日生諸島の風光明媚な大自然の中に縄文時代の集落を復元したもの。平成 4 年日生町で開村。平成 21 年 4 月 1 日より、ベネフィットホテル株式会社が指定管理者。

④国指定史跡「伊部南大窯跡(平成 21 年までの指定名称)」の小規模な環境整備 昭和 63 年の公有化事業にともなう、擬木柵、説明板、ベンチ等の設置事業。平成 3 年実施。

⑤大多府島灯籠堂 正徳 4 (1714) 年から明治初年まで付近を航行する船の燈台。現在のものは当時の台座に、昭和 61 年再建したもの。「灯籠堂石罫」の名称で市指定史跡。

以上だが、①～③は事業部局で行われ、④・⑤は文化財保護部局で行った。

(4) 地域文化資源に関する情報発信 【表 5】

備前市で行った世界遺産シンポジウム、備前歴史フォーラム、文化講演会、さまざまな情報発信のうち主なものは表 5 のとおりである。

表5 主なシンポジウム

年度	備前焼関連	世界遺産関連	その他生涯学習関連
平成17年	・備前歴史フォーラム2005 「備前焼研究最前線Ⅱ ～備前焼、その歴史、今まで何がわかって、何がわからないのか、」		
平成18年	・備前歴史フォーラム2006 「備前焼・海の道・夢フォーラム2006～備前焼の歴史と未来像を求めて～」		
平成19年	・備前歴史フォーラム2007 「備前と茶陶 ～16・17世紀の変革～」		・第19回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山2007 ・吉永町史刊行記念講演会
平成20年	・備前歴史フォーラム2008 「江戸時代の暮らしと備前焼」		
平成21年	・備前歴史フォーラム2009 「鎌倉・室町・BIZEN ～中世備前焼のすがた～」 ・備前陶器窯跡国史跡指定記念シンポジウム「再発見！備前焼大窯の価値と魅力」	・世界遺産シンポジウム 「近世の教育資産を考える～足利学校・弘道館・閑谷学校～」	
平成22年	・備前歴史フォーラム2010 「“摺る” ～播鉢からみえる中世の社会」	・世界遺産シンポジウム 「江戸時代の教育に学ぶ～閑谷学校をめぐる新たな視点～」	・第25回 国民文化祭・おかやま2010
平成23年	・備前歴史フォーラム2011 「備前と茶陶 ～茶道の視点 考古学の視点～」 ・六古窯六時間シンポジウム 「六古窯の魅力」	・世界遺産シンポジウム 「時代が望む人づくり～アジアの中の閑谷学校～」	
平成24年	・備前歴史フォーラム2012 「商うー歴史資料から見るやきもの値段ー」	・旧閑谷学校世界遺産登録推進活動「まなび」フォーラム	

(5) 市民の取組み

地域の人が歴史・文化の調査研究を主体的に行っている活動や文化財・史跡をテーマにまちづくりに取組んでいるものとして、地域紙「三石城」編集部、片上ウエルカムガイド、「日生カキお好み焼き研究会」と「日生カキオコまちづくりの会」、備前市ボランティアガイド協会、備前郷土史研究会、片上地区のボランティアグループ、伊里マップ作りの会、東鶴山風土記編集委員会などを挙げることができる。これ以外にも個人で史跡の案内図を作成する郷土史家や、史跡や寺社などを含んだ地域マップ作りもなされている。

2 地域文化資源の活用に関わる課題

(1) 全国的ブランドの地域文化資源の保存と活用

これまでみてきたとおり備前市には全国的ブランドである地域文化資源があり、地域の歴史文化に厚みを加えている。「備前焼」、「閑谷学校」、「カキオコ」などが全国ブランド化する過程はそれぞれ異なるが、関係者や地域の人々の熱い思いがそこにあったはずである。行政はその取組みを尊重し、さらなる展開ができるよう明確なビジョンをもつことが必要である。

姫路沖の離島で進められている「いえしまプロジェクト」を進めている山崎亮氏によると「この30年間で、公共的事業に対する住民参加の手法はかなり開発されてきたように思う。にも関わらず、行政側の態度はかわっていないことが気になる。公共的な事業に対する住民参加を求めるのであれば、行政参加の手法についても検討する必要があるだろう。今後は公共的な事業はすべて行政が行うものだという認識を改めて、できる限り住民と行政が協働して進めるものだと考えるべきだ。そのとき、住民参加の手法に負けないくらいの行政手法を開発しなければ、行政はプロジェクト全体にマイナスの影響を与えるような意思決定ばかりしてしまう」と述べている。

地域の取組みを尊重することは大事なのであるが、その手法がまだまだ未開発で正解がないと言うのが現状のようだ。全国ブランドではなく、これから全国へ展開していく地域文化資源もあると思うが、行政側がブレーキにならぬような、さまざまな視点に配慮した丁寧なビジョンが求められている。

(2) 市民グループ、研究者、民間企業、私立美術館等の連携による仕組みづくり

地域文化資源を有効に活用し、さまざまに展開していくには、郷土史研究会などの市民グループ、歴史・考古・美術・デザインなどの研究者や専門家、まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープデザインなどに関わる民間企業、もちろん市内に事務所を構える企業、さらには民間の美術館なども含めて、それらがお互いに有機的に働き、しかも継続的に活動できるかが重要なポイントのひとつになる。それぞれが役割分担を明確にし、ひとつの方向性を持って取組んでいくことが大切である。

(3) 連携した人が「豊かさ」を感じられる事業推進

最後に最も大切なのは、連携して取組んだ参加者が、充足感や達成感を得られることである。その度合いは参加者ごとに異なるが、行政側では各種の制度で事業を推進したり、各地域で行われている取組みを地域外へ広報するなど、充足感や達成感を得られるきっかけづくりをすることが必要である。さらに事業がすすんでいくことによって「この地域に住んでいてよかった」「自分のまちのこんなところが好きだ」「この街並は私たちの誇りだ」など豊かさを感じる人が増えたら、いいサイクルができていく。地域文化資源を活用するとはいっても、最終的にはその地域の人々が主人公として活用し、その結果を主人公が享受するわけだから、この仕組みづくりは重要である。

第7章 地域文化資源を総合的に活用するためのメニュー

1 市全体で考える保存と活用 【表6】

第7章では、「歴史、文化、自然を活かして幸せに暮らす」将来像を実現するために、これまで総括してきた地域資源の概要、活用するための基本方針や課題をベースに、今後実施する具体的メニューを提示する。

表6 地域文化資源を総合的に活用するためのメニューと計画期間

年度	H25	H26	H27	H28	H29
(1)地域文化財資源の総合目録作り	民俗調査	・自然分野の調査 ・建造物の調査	石造美術の調査	古文書調査	総括と30年度以降の調査計画
(2)市指定文化財の精査等	文化財保護審議会内に検討委員会設置と検討		文化財保護審議会からの答申と指定の加除実施		
(3)関連文化財群の活用等	各関連文化財群の「取組むべき事項」に基づく事業実施と「歴史文化保存活用区域」の検討				歴史文化保存活用区域の設定
(4)文化施設の現状分析と将来的展望	備前市の歴史文化を将来にわたって伝えていく施設を新総合計画ともすり合わせを行いながら検討				
(5)歴民・加子浦の情報共有・発信等	全般	総合目録作りの実施			
	歴史民俗資料館	・ワークショップ・メニューの充実 ・普及担当学芸員の配置	歴史文化よろず相談所(仮称)の設置と受益者負担の検討	地域学習ができる場としての活用	
	加子浦歴史文化館	運営方法の検討と実施			
	埋蔵文化財管理センター	・土日開館の実施 ・ワークショップ・メニューの充実 ・ガイダンス機能の強化	ガイダンス機能の強化		
	吉永美術館	公民館ギャラリーとしての移管		公民館ギャラリーでの企画展示	
(6)小・中学校における地域学習の推進	地域学習の仕組み検討	地域学習の実施			
(7)市民グループ等との連携	・連携できる仕組みづくりの検討 ・人材育成など今後5年間の検討		「地域資源発掘隊」や「閑谷マイスター制度」などを設け、総合目録作りなど連携しながら事業実施		
(8)ガイダンス機能の拡充等	歴史文化よろず相談所(仮称)の設置と活用				
(9)寺社との連携	市指定建造物大規模改修の公開と「お寺活用プログラム」の開発			お寺活用プログラムの実施	
(10)関連文化財群の情報発信	情報発信手法の検討	史跡・文化財の統一感のある案内表示の随時改修ほか			

(1) 地域文化資源の総合目録づくり

備前市全体の地域資源を総合的、悉皆的に把握するため、総合目録作りを行う。備前市内に点在している文化財は、指定・未指定に関わらずその地域を形成してきた貴重な資料(パーツ)であり、今後のまちづくりのベースとなるものである。これらを項目ごとに、計画的に、地域に住む人々が主体的に把握することが、地域の成り立ちを丁寧に学ぶこととなり、さらには文化財の散逸や破壊を防ぐ動機づけともなる。

先行的事例として行政が主導した平成23年度の「備前市文化財総合調査(仏像調査)」があるが、今後対象としては、歴史的な建造物、寺社等を取り巻く自然環境、各地区で継承されている習俗、街角にある石造美術、旧家に残る古文書など多岐にわたる地域文化資源が想定される。なお調査は行政だけでなく、地域の人々が主体となって、研究者、学校、郷土史研究グループなどが協力し合いながら進めていくことが重要である。

(2) 市指定文化財の精査と国・県指定・選定の推進

現在備前市内には国、県、市指定の文化財が114件(登録有形文化財2件を含む)ある。そのうち市指定文化財は80件で、平成17年の合併により旧日生町、吉永町、備前市から引き継いだものである。合併は対等であるため加除はなされていない。合併協議会における協議に基づき、備前市文化財保護審議会や分科会において指定要件が消滅している指定文化財の解除や名称種類の適正化を計画的に進めようとしたが、個別案件を引き継ぐものが多々あり、解除は1件もなされていない。今後は総合目録作りを行うことにより、地域の文化財の悉皆的把握が可能となり、指定基準も設定が可能となる。このような作業を前提に現在の市指定文化財の見直しを行う。

また総合目録作りを行うことにより、市内に所在する貴重な地域資源を把握することが可能になり、長期的な視点で文化財保護法、岡山県・備前市の条例等により指定等を進めていくことができる。

平成21年度には岡山県によって「旧閑谷学校保存管理計画」が策定され、世界遺産登録を目指す「旧閑谷学校」の保存管理すべき範囲が明示された。これに基づき新たに追加指定や指定地の拡大などが想定されるが、岡山県と協議を行いながら進めていくものとする。

(3) 関連文化財群の活用と歴史文化保存活用区域の設定

第4章で設定した関連文化財群の基本的な整理を行い、歴史的文化的に関連づけられたまとまりを効果的に活用していく。また「歴史文化保存活用区域」の設定を5年後の2017年度を目途に検討し、行政と地域の人々で総合的な事業を進めていく。

○関連文化財群の基本的な考え方の整理

備前市の歴史文化を特徴づける関連文化財群が7件抽出されたが、各関連文化財群の特性を次の項目により整理する。(1)調査・研究 (2)文化財の指定 (3)公開・活用 (4)情報発信 (5)地域の人々の取組み この5項目とするが、それぞれ「過去に実施したもの」、

「現在実施中のもの」、「将来取組むべき事項」の時間的区分を加味し、表組で整理をおこなう。

○歴史文化保存活用区域設定の考え方

歴史文化保存活用区域は、都市計画マスタープランなど行政が策定したまちづくりに関連した施策と連携しながら、特に重点的に事業を推進する地域である。推進にあたっては選び出した地域資源を積極的に活用し、さらに歴史的なつながりを考慮しながら、再生することも可能である。さらには地域の人々や来訪者の知的満足度を高める空間的な演出・構成が重要となる。本構想では都市整備部局とも調整をはかりながら、2017年度を目途に検討する。

（４）文化施設の現状分析と将来的展望

備前市には合併以前に各市町で整備した歴史民俗資料館、加子浦歴史文化館などの文化施設がある。さらに備前焼に関する私立の文化施設や個人コレクションを展示した施設がある。詳細は各地域において資料の保管や展示、地域文化を伝えるコアな場所としてその役割を果たしてきた。しかし備前市では行財政改革として、市内に所在する文化施設の再編成が不可避な状況になっている。

これらを受け、この構想において文化施設の一つの提言を行う。まず、概ね10年間の長期的視点と、次の項で2、3年を目途とした各施設での短期的な取組みについて記述する。

地域資源の抽出作業をするまでもなく、備前市内には全国に発信すべき地域資源「備前焼」「閑谷学校」などがあり、それらは備前市らしさであり、市の個性でもある。しかし、その情報発信をする市立文化施設のうち、博物館法の適用を受けているものはない。詳細については別表だが、新総合計画の基本理念【「備前らしさ」のあふれるまち、将来像『古くて新しい「教育のまち備前」～学びの原郷 閑谷学校が開かれたまち～』】にたてば、歴史文化を将来に渡って伝えていくという視点が明示されていることから、博物館法の適用を受ける耐震耐火の施設整備は喫緊の課題であり、さらにいえば市の責務といえる。岡山県では国宝指定建造物は2件あるが、そのうち「旧閑谷学校講堂」が所在する備前市の文化施設では、国・県指定の文化財の展示が不可能というこのような厳しい状況である。

近年、図書館や生涯学習センター、商業施設の一部として美術館、資料館を整備する例もあり、また市内に所在する貴重書籍などを活用した図書館と複合した施設として計画することも可能である。現在ある文化施設の存続は、長期的な視点に立った再編成・統合案の中で検討されるのが望ましい。

(5) 歴史民俗資料館、加子浦歴史文化館、地域公民館等との情報共有・発信【表7】

表7 備前市内の文化施設等一覧 (平成25年4月1日現在)

名称	業務内容	住所	電話	休館日	備考
備前市 歴史民俗資料館	発掘された資料や古備前から備前焼の歴史を紹介するほか、正宗白鳥、柴田錬三郎など備前市ゆかりの小説家や作品について展示	備前市 東片上 385	64- 4428	月曜日・ 祝日の 翌日・ 年末年始	平成3年開館 本館延床367㎡ (昭和26年竣工の建物) 収蔵庫延床66㎡ 学芸員2名(常勤)・ 管理人(非常勤)
備前市 加子浦歴史文化館	温故知新の言葉のように、海と人を活かす町をテーマに生活や産業の歴史展示	備前市 日生町 日生 801-4	72- 9026	火曜日・ 祝日の翌日・ 年末年始	平成9年開館 文芸館延床301㎡ 資料館延床269㎡ (江戸末建築の本陣建物を利用) 学芸員・管理人(非常勤)
備前市 吉永美術館	江戸時代に生きた郷土出身の漢学者でもあり書家でもある武元登々庵とその弟君立の作品を収蔵	備前市 吉永町 吉永中 885	84- 3839	月曜日・ 祝祭日・ 年末年始・ 展示替え等 による特別 休館日	平成2年開館 延床206㎡ 空調管理できる収蔵庫 公民館職員が兼務
備前市 埋蔵文化財 管理センター	埋蔵文化財の保護・保存を図るための施設。発掘調査、出土品の適切な保存管理、調査研究、活用公開などを通して、地域の資産として後世に引きつぐ	備前市 伊部 974-3	92- 4300	火曜日・ 祝日の 翌日・ 年末年始	平成23年開館 延床416㎡ (昭和46年設置の 県陶芸センター本館の 無償貸与) 文化財専門員(嘱託)・ 調査補助員(常勤)・ 遺物整理作業員(非常勤)
岡山県 備前陶芸美術館	千年の歴史を持つ備前焼の、古備前から現代に至る作品及び資料を一堂に集め、展示・公開している	備前市 伊部 1659-6	64- 1400	月曜日・ 年末年始	昭和52年開館 延床721㎡ 学芸員・事務職員
藤原啓記念館	備前焼の人間国宝 藤原啓(1899～1983)の年代毎の代表作や彼が影響を受けた古備前などを展示	備前市 穂浪 3868	67- 0638	月曜日・ 12月20日 ～ 1月10日	昭和51年開館
BIZEN中南米 美術館	日本唯一の古代中南米美術館。世界の七大文明中、日本の歴史教育の空白にある三大(メキシコ中央高原、マヤ、中央アンデス)文明と周辺文化を紹介	備前市 日生町 日生 241-10	72- 0222	平日・ 年末年始	昭和50年開館

*岡山県内76美術館・博物館等の案内ガイド「おかやま博物館めぐりの旅」をもとに作成

*このほか岡山県博物館協議会加盟の施設ではないが関連する施設として、
正宗文庫、柴田錬三郎生家、八塔寺ふるさと村民俗資料館などがある。

①歴史民俗資料館

平成3年に備前市片上に開館した施設であるが、建物は昭和26年建設の簡易裁判所を改修したものである。従って耐震耐火構造を持たない。また展示室等の区画も旧来の建物の構造をそのまま利用しているため、講座等開催する場所が確保できないなど施設面で限界がある。しかし、開館以来、地域の歴史、文化をテーマに営々と企画展、ワークショップ等を開催し、また小学校高学年の地域学習の場として定着するなど、地域文化を伝える施設としては十分機能してきた。

平成18年以降は市の定数職員の配置がなくなり、さらに寄贈資料で収蔵庫が飽和状態になっている。また開館して20年を経過し、地域をテーマにした企画展も一巡したとの認識から、特化した企画展の開催を重ねたが、来館者減となることもあった。

これらを踏まえ、今後の歴史民俗資料館の取組みを次の通りとする。

- ・備前市の小学校教職員が作成した社会科の副読本を活用して地域学習ができる場とする
- ・出前講座を行うとともに、回想法などを利用したワークショップなどメニューの充実を図る
- ・地域の総合目録作りを主体となってい、その成果を企画展のテーマとする
- ・展示テーマは歴史、民俗、自然、美術とし、従来あった考古分野は備前市埋蔵文化財管理センターに引き継ぐ
- ・入館料を徴収しない施設であるが、受益者負担が必要か検討する
- ・地域の人が気軽に利用できる施設として「歴史文化よろず相談所(仮称)」を開設する
- ・吉永美術館にも対応する専門職員の配置を検討する

②加子浦歴史文化館

平成9年に日生町の「五味の市」東側に設置された施設である。江戸時代の建物を移築改修した資料館(茶室、日本庭園を含む)と文芸館からなる。資料館では、「漁港日生」に特化し、弁財船や船具など海に関する豊富な資料を、また、文芸館では作家里村欣三や作曲家岡千秋など地元出身者やゆかりの著名文化人などの資料を展示している。開館以来、日生地域に関連のある歴史・文学資料や芸術作品の蒐集と発掘に努め、これをもとに企画展を開催し、地域文化の情報発信を行っている。

有料館として開館以来15年経過しているが、近年の景気の低迷による来館者の減少や文芸館2階展示室への急こう配の階段がバリアフリー化されていないなど問題点もある。

これらを踏まえ、今後の加子浦歴史文化館の取組みを次の通りとする。

- ・企画展のテーマは、美術、工芸、歴史、文学、民俗と多岐にわたるものを取り上げ、地域住民に親しまれるとともに、観光客も来館できるようにする。あわせて地域の食材に関する紹介や資料館茶室等の活用について検討する
- ・地域の総合目録作りを主体となってい、その成果も企画展のテーマとする
- ・「五味の市」「もやい茶屋」に隣接している立地を生かし、これら施設との共栄共存を図る

③埋蔵文化財管理センター

埋蔵文化財管理センターは、発掘調査、出土品の適切な保存管理、調査研究、活用公開などを通して、史跡・埋蔵文化財を地域の資産として後世に引きつぐため、平成 23 年 4 月から運用を開始した。旧陶芸センター本館を岡山県より無償貸与され、同年 11 月には備前焼の歴史を学べる常設展示室をオープンした。備前焼にちなんだキャラクターが展示の見どころを紹介し、スタッフが立ち会えば展示品に触れることもできる親しみやすい施設を目指している。平成 23 年には、住民生活に光をそそぐ国の交付金を活用して、隣接する旧道路公団事務所を改修し、約 5,000 箱の収容力をもつ収蔵庫を整備した。

開設して間もない施設であるが、今後の埋蔵文化財管理センターの取組み方向を次の通りとする。

- ・備前焼の歴史を勉強するためのガイダンス機能を強化する
- ・小学生が遺物整理作業を見学し「伝統文化のルーツ」に直に触れることで、生涯学習の場として積極的活用を図る
- ・研究者の資料見学や、出土品の貸出しにも対応が可能な窯業地「備前」として情報発信拠点とする
- ・出土資料を現代の作家が観覧することにより、焼成技術や窯詰め手法が検討できる研究拠点となるよう調査研究を行う
- ・独自キャラクターを活用したワークショップを企画し、多種のメニューを開発する
- ・入館料を徴収しない施設であるが、受益者負担が必要か検討する
- ・展示室などを活用して企画展示等を行う
- ・土日開館の施設とし、適切な休館日の設定、適切な職員の配置を行う

④吉永美術館

平成 2 年、通商産業省所管平成元年度工業再配置促進補助事業(協力企業ジャパンゴアテックス株式会社(現:日本ゴア株式会社))を受け建設した施設。1階展示室と2階収蔵庫からなる。「備前市内で唯一空調管理ができる収蔵庫」には市指定文化財「武元登々庵肖像画」などが保管されている。

開館当初は専任の臨時職員が配置され吉永地域をテーマに企画展、台帳の作成等が開催されていたが、平成 16 年以降は配置されず、入館者対応は隣接する図書館職員、管理は公民館職員が行っている。合併後は、季節ごとに収蔵品の展示や文化祭の発表の場、ときに有料のギャラリーとして活用されている。

これらを踏まえ、今後吉永美術館の取組みを次の通りとする。

- ・吉永地域公民館の展示室、ギャラリーとして施設を移管する方向で検討する
- ・書家「武元登々庵」の資料を所蔵するギャラリーとして、書道関係者の個展、発表の場として有料利用を図る
- ・吉永地域をテーマにギャラリーで企画展示を行う

(6) 小・中学校における地域学習の推進

地域の高齢者と子どもが歴史や民俗などを通じてつながることも大切な視点である。地域の人々が地域を学ぶ場、学校の子どもも地域を学ぶ場として文化施設の活用もあるが、学校の中で地域を学習する取組みも大切である。具体的には平成 20 年度から生涯学習課で実施している「学校支援地域本部事業」の中で検討することも可能である。この事業は「学校が求める教育課題に対して、地域が学校と連携・協力しながら教育活動の支援に参画する仕組みづくりを進めること」を目的としたもので地域のボランティアが学校で学習支援や環境整備支援、読み聞かせや部活動支援などを行うもので、その活動内容の中に「歴史と民俗で地域とつながる」支援項目の検討もできる。小学校では社会科や総合的な学習の時間で歴史などの地域学習を実施しているが、さらに深化させた形で取り組む。

(7) 市民グループ、行政職員等の連携と専門職員の人材育成

先述の山崎亮氏によると「地域づくり」に重要な点は次の 3 点だととられている。

- ①外部の視点を入れ、地域住民が地域を再発見しデザインすること
- ②人と人のつながりをつくり地域が動き出すきっかけをつくること
- ③短期的なブームを起こすのではなく、地に足のついたスローな活動をじわじわと立ち上げること

「歴史、文化、自然を活かして幸せに暮らす」将来像で地域づくりをするためには、「ひと」が大切であることが山崎亮氏の指摘でもよくわかる。さらにもうひとつ重要な指摘がされている。

- ④公共的な事業に対する行政の参加手法が、住民参加手法にくらべて遅れており、むしろマイナスの影響を与える場合がある

つまり、住民の参加手法はかなり開発されてきているが、行政側はほとんどかわっていないので、意識改革が必要ということである。

平成 17 年、備前市商工会議所が備前市ボランティアガイド協会を設立し、現在約 30 名のガイドが伊部地区、閑谷学校で観光案内を行っている。平成 22 年岡山県で行われた国民文化祭では、備前会場においてはボランティアとして大きな役割を果たした。

こうした取組みは、行政と地域住民、来訪者をつなげるものとして効果的であり、さらには地域文化資源を地域がどう活用していくか、実践的な例の蓄積として期待が大きい。

一方、備前市が歴史文化という視点で人材育成を行った事例はあるが、継続的な取組みにはなっていない。今後は、歴史文化基本構想をもとにまちづくりを地域の人々と進めていくため、地域文化資源発掘隊(仮称)を設け、市民と行政が連携できる仕組みづくりをゆるやかにじっくり行う。さらには世界遺産登録を目指す閑谷学校では、「その価値を伝える」ボランティアガイドなどの人材養成を行い、「閑谷学校マイスター」として位置づけ、「閑谷学校の価値を地域の人々が自らの言葉で語る」取組みも検討していく。

一方、地域資源を活用していくためには、歴史・考古・民俗・美術など専門的職員が

市民と共にまちづくりに参加できる行政の組織づくりや専門職員の不断の人材育成が前提となる。また、行政職員も基礎的知識の習得が必要であり、関係する課の担当職員との情報共有もリアルタイムで行う必要がある。

(8) ガイダンス機能の拡充と「歴史と文化よろず相談所(仮称)」の設置

誰でも、気軽に地域の歴史文化にふれ、学べる仕組みづくりは、地域資源を活用するためには不可欠なものである。来訪者が、また地域の人が、小学生が、「歴史文化」に触れて、「もっとこのことを知りたい」、「この文化財はまちづくりに使えるのでは」「あの文化財が傷んでいるのでどうしたらいいか」などさまざまな欲求を持つことと思う。その欲求を簡便な方法で解決する仕組み、例えば「歴史と文化のよろず相談所(仮)」を歴史民俗資料館等に設置する。看板を掲げ、時には電話でも対応する。来訪者や地域の人と交流することにより、来館者、リピーターの増加につながることもなる。

(9) 現代の文化センターと昔の文化センター「寺社」との連携

現在備前市内に所在する指定建造物は、国7件28棟、県2件2棟、市14件15棟である。閑谷学校の指定をのぞき、そのほとんどが寺社関連となっている。県内市町村の中でも、市指定建造物が岡山市、津山市の次に多いのが特徴である。先人から引継いだ貴重な文化財は適切な保存管理のもと後世の人々へ引継ぐ責務を管理者や行政が負っている。それには管理者の不断の管理が前提となっているが、多額の経費を要する大規模修理・改修は行政の補助制度を利用して行われるものが多い。

近年、小修理、改修が必要な市指定建造物が増加し、文化財保護費で大きな比率を占めつつある。一方、全国的に国の補助制度を利用した解体修理などは積極的に一般に公開することが多く、参加者が先人の技術に感嘆したり、思わぬ発見もあつたりする。また、それは宗教法人に対して交付される税の使い道の明確な説明という側面もある。

今後、備前市では市指定建造物を中心に大規模な解体修理が頻繁に行われることが想定されている。解体修理時の一般への公開は前提だが、竣工後は新たな取組みも想定できる。近世では地域の紐帯であり、文化センターでもあつた寺社であるが、檀家数の減少や直葬増加による僧侶が行う葬儀の割合の減少など現代的意味を問い直す指摘も近年多い。その中で多額の補助金が交付されることになれば、檀家や信者だけの寺社でなく、「現代の文化センター」としてその期待される役割は大きい。東京都心のある寺では昼間カフェを運営し会社員等が癒し空間として利用している事例や、香川県、岡山県北の寺では備前焼作家が作品展示する会場として華道とのコラボ展を開催するなど新たな取組みがされている。

(10) 関連文化財群の情報発信

関連文化財群を活用する方法の中で情報発信は重要なポイントである。市民には「関連文化財群」をどう伝えるのか、市外からの来訪者にはどのメディアを活用するのか、計画的、統一感のある情報発信の手法の検討を行うことが必要である。メディアはホー

ムページやスマートフォン（スマホ）などデジタル機器を利用する場合、ガイドブックや案内パンフレットをアナログ的に活用する場合、さまざまな場面が考えられる。

さらには市内来訪者にとって物理的な案内表示は観光客や来訪者にとって大切な意味をもつ。目的とする観光施設や史跡などへの案内・説明表示は、地域のホスピタリティー（もてなしのこころ）が如実に表れるからである。大きな表示でスローガンばかり目立つ市内中心部、指定建造物の前にたつ景観に配慮していない説明板、設置後経年劣化で美観を損ねているサインポールなど、特に初めてその地を訪れる観光客にとってマイナスイメージを持たれるものも多い。

加えて岡山県の景観条例で高さ、色など大まかな規制をされている地域はあるが、今後設置される案内表示、説明板などは次の点に配慮することが望まれる。

- ・ 周囲の景観に配慮して、色やかたちに調和のとれたもの
- ・ 観光客の導線に配慮して、きめ細やかな心遣いがなされているもの
- ・ 関連文化財群内では、統一感のある表示を行い、まとまり感を演出できるもの
- ・ スマホなどで地図情報が活用できるアプリの積極的活用

2 地域文化資源の保存と活用

この項では、設定した7つの関連文化財群各々の「過去に実施したもの」「現在実施中のもの」「将来取組むべき事項」の3項目で整理した。具体的には個々の表の中で記述しているが、特に「将来取組むべき事項」、つまりこの「歴史文化基本構想で何を行うのか」を関連文化財群ごとにポイントを列記する。

（1）関連文化財群「学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産」の保存活用 【(1)】

この関連文化財群では「世界遺産登録推進活動」との連携がポイントになる。近年の世界遺産登録の活動は「顕著で普遍的な価値」の追究を前提とした「持続可能な社会をつくり出す」ことに比重が置かれている。従ってこの構想では、世界遺産暫定一覧表登載に向けて調査研究を行い、持続可能な社会をつくり出す人々に重点を置いた「人材育成」をキーワードとした戦略を検討することが大切である。

（2）関連文化財群「備前焼を生み、栄えるまち」の保存活用 【(2)】

平成20年に追加指定と名称の変更を受けた「備前陶器窯跡」を地域の中でどう活用していくかが重要である。文化庁国庫補助金を基に相当の事業費を組み発掘調査を実施した成果を伊部南大窯北側広場の活用策の検討や、備前市埋蔵文化財管理センターの運用の中で展開していく必要がある。また「備前焼の伝統的製作技術の調査・研究」をさらに深化し情報発信することにより、デフレ不況で不振な「備前焼」業界活性化のヒントとなる可能性もある。

（3）関連文化財群「近代漁業発祥のまちと食文化」の保存活用 【(3)】

「カキオコ」の成功事例は地域の人々に大きな刺激を与え、行政はご当地グルメブー

ムの中で強力な地域情報発信のツールとして再認識した。「カキオコ」は「ひるぜん焼きそば」や「津山ホルモンうどん」など県内のご当地グルメとともに引き続き全国へ発信していくだろうが、一方、神根の「ねこめし」など地域の人々が伝統的な食文化を掘り起こす試みも大切である。文化施設では伝統的な食文化を今に伝える団体等と連携し、地域文化を発信していく。

(4) 関連文化財群「中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観」の保存活用 【(4)】

現在では「のどかな農村風景」が広がる「八塔寺ふるさと村の景観」だが中世山岳仏教が栄えた地域でもある。この視点から「文化的景観」を基とした調査手法の検討や「天然記念物の実態調査」など「八塔寺の歴史や自然」の調査研究のさらなる深化をはかり、その過程の情報発信を行う、こういったフレームづくりが必須である。

(5) 関連文化財群「耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち」の保存活用 【(5)】

近年三石地区では「神崎耐火煉瓦の煙突」、「旧三石郵便局舎」など岡山県近代化遺産2次調査対象遺産が相次いで撤去され、その独特の景観が失われつつある。また象徴的な存在である「旧三石尋常高等小学校講堂」も学校施設としてはすでにその目的を消失していて、保存の先行きは見えない。しかし近代化遺産を生かしたイベントはMプロジェクト協議会を中心に盛んである。行政が近代化遺産の保存方法の検討やまち歩きワークショップの実施などを通して「近代化遺産に関する情報発信」を行う必要性と、「大人の工場見学」などで地域にも経済的メリットがある取組みが望まれる。

(6) 関連文化財群「映画と文学、「心象風景」の残るふるさと」の保存活用 【(6)】

この関連文化財群では、行政が備前ゆかりの文学者の情報発信方法のさらなる検討を行うことと、フィルムコミッションがない備前市で「ロケ地候補の検討や映画ロケ地巡りツアー」を行うことで「備前市らしさ」の情報発信が可能となる。この分野は素材「備前市」を全国に発信する際に、強力なツールとなり、地域にも経済的メリットが大きい。

(7) 関連文化財群「交流と流通の要となった地」の保存活用 【(7)】

この関連文化財群は関連する分野が広いため、具体的に明示が難しいが、例えば国指定史跡「丸山古墳」は舶載三角縁神獣鏡など30数面の鏡が出土した重要な古墳であることから、発掘調査や整備について、文献的な調査も行い将来的な構想として視野に入れることも視点のひとつである。また、行政が「交流と流通の要となった地」をテーマとしたワークショップやシンポジウムを開催することにより、逆に個々の身近な課題が見えてくることもあるだろう。



表8-1 備前市歴史民俗資料館企画展一覧

	企画展名	開催期間
1	閑谷学校展	平成3年5月17日～9月1日
2	片上のいにしえ展 ～万代常閑～	平成3年10月1日～平成4年1月15日
3	伊部地区展 伊部と秀吉	平成4年2月1日～5月15日
4	与謝野晶子・鉄幹と備前	平成4年6月2日～10月15日
5	三石 山陽道と鏡石神社	平成4年11月1日～平成5年2月16日
6	備前の生んだ偉才 守時喜三郎写真・機材展 白と黒のファンタジー	平成5年3月2日～6月15日
7	文人画家小橋平咸と備前	平成5年7月1日～10月15日
8	西鶴山地区展 山陽道の過客たち ～出土資料と～	平成5年11月2日～平成6年2月15日
9	東鶴山地区展 柴田錬三郎とふるさと備前	平成6年3月1日～6月15日
10	長縄手遺跡パネル・速報展 ～発掘された備前の縄文時代～	平成6年7月1日～10月15日
11	備前正楽寺 蕃山隠棲之地(正楽寺の寺宝)	平成6年11月1日～11月27日
	(熊沢蕃山と正楽寺)	平成6年11月29日～12月25日
	(正楽寺の墨跡)	平成6年12月27日～平成7年2月15日
12	墨象 守時大融展	平成7年3月1日～4月16日
13	備前の俳人	平成7年5月23日～7月2日
14	備前焼と品種	平成7年8月15日～11月12日
15	KAGATO OHAGURO	平成8年3月5日～6月9日
16	みやびの系譜 正宗敦夫	平成8年8月13日～10月6日
17	廉潔明智の人 西薇山	平成9年8月8日～10月19日
18	備前の海遊 和歌・写真展	平成10年3月8日～5月15日
19	備前・かたもの ～佐藤陶崖と近世の名工たち～	平成10年8月8日～10月10日
20	備前の絵馬	平成11年4月27日～6月27日
21	熊沢蕃山と正楽寺	平成11年10月26日～12月12日
22	日本の貨幣	平成12年7月15日～9月10日
23	妙圀寺の寺宝	平成12年10月6日～11月19日
24	火縄銃 ～江戸時代の鉄砲～	平成13年7月24日～9月2日
25	石井十次を支えた香登教会	平成13年10月30日～12月9日
26	おもいででの片上鉄道	平成18年5月24日～7月24日
27	閑谷学校と井田	平成19年3月21日～6月3日
28	備前市の耐火物 耐火れんが発祥の地	平成19年7月25日～9月10日
29	発掘資料が語る中近世の備前焼	平成19年10月29日～12月17日
30	儒学から近代教育へ ～幕末から昭和初期までの教科書・出版書～	平成17年1月15日～3月13日
31	大滝山福生寺 ～その歴史と信仰～	平成17年7月20日～9月25日
32	ものが語る記憶一戦前・戦中の暮らし	平成18年2月15日～4月9日
33	和気閑谷の学び舎 ～近現代を開いた偉才～	平成21年5月1日～7月12日
34	備前焼	平成19年10月27日～12月16日
35	わくわく！化石まるごと大図鑑	平成19年12月22日～1月27日
36	備前の徳利、海の道を行く	平成20年8月30日～10月19日
37	昆虫 ふしぎ発見！！	平成21年3月14日～5月10日
38	なぎさの記憶・瀬戸内の太平洋戦争 ～戦艦大和の時代と人々の暮らし～	平成21年7月4日～8月23日
39	戦地からの手紙	平成23年7月15日～9月18日
40	おもいででの片上鉄道	平成23年10月8日～12月4日
41	まんがハルカの陶原画展 ～描かれた備前焼の里と器～	平成24年7月24日～9月9日
42	備前の戦国 一乱世に生きた男たち	平成24年11月16日～平成25年1月13日
43	どきっとキット貸出はじめます展 と、楽しい国語の世界	平成25年8月13日～9月15日
44	色を奏でるポアンチスト(点彩画) 正宗得三郎	平成25年10月24日～12月15日
45	備前市新指定文化財展 ～備前焼の製作技術～	平成25年12月19日～平成26年1月5日



表8-2 加子浦歴史文化館企画展等一覧

	企画展名	開催期間
1	海の道・日生	平成9年11月1日～12月3日
2	吉祥書画展	平成9年12月18日～平成10年2月1日
3	岡山県の瀑布写真展	平成10年2月18日～3月2日
4	武元君立・登々庵と江戸漢学を探る	平成10年6月6日～8月19日
5	筑前屋の系譜	平成10年9月2日～11月30日
6	岡山写壇の魁・守時喜三郎写真展	平成5年3月2日～6月15日
7	江戸期の学問に遊ぶ	平成11年5月1日～7月16日
8	書の楽しみ	平成11年7月16日～8月30日
9	現代陶芸展	平成6年3月1日～6月15日
10	鵬斎と琴浦・白谷を探る	平成6年7月1日～10月15日
11	栄光の日生の人々1	平成12年7月22日～9月30日
12	加子浦歴史文化館購入品展	平成12年11月3日～平成13年1月15日
13	加子浦歴史文化館寄贈品展	平成13年3月14日～5月14日
14	資料の語る日生町の歴史展	平成13年7月11日～9月17日
15	小説家里村欣三と文学仲間たち	平成13年11月1日～平成14年1月14日
16	日生の歳時記	平成13年3月21日～5月6日
17	現代に生きるおはぐろ	平成14年6月26日～9月2日
18	南画家久保田耕民と一門展	平成14年10月23日～平成15年1月13日
19	東備のコレクション	平成15年3月12日～5月26日
20	大阪画壇を彩る人々ー有秋会と石井金陵を中心に	平成15年7月10日～9月15日
21	西薇山をめぐる明治の群像	平成15年11月3日～平成16年1月15日
22	南画を楽しむ	平成16年3月27日～5月9日
23	日生村の郷学総括中司通明	平成16年7月21日～9月20日
24	西薇山と門人たち	平成16年11月3日～平成17年1月17日
25	作曲家岡千秋の軌跡	平成17年2月6日～3月14日
26	日生を撮る	平成17年7月19日～9月20日
27	日生の漁業	平成17年11月9日～平成18年1月30日
28	備前の文人陶芸家	平成18年5月24日～7月24日
29	備前の徳利・ぐい呑・宝瓶展	平成19年3月21日～6月3日
30	40年前の日生ー1外国人が撮った映像をまじえて	平成19年7月25日～9月10日
31	山田方谷と郷土の人々	平成19年10月29日～12月17日
32	文豪 柴田錬三郎の世界	平成20年3月26日～5月28日
33	50年前のポスター	平成20年7月30日～9月28日
34	熊沢蕃山と郷土の人々	平成20年12月20日～平成21年3月22日
35	備前の細工物ー香炉を主体にー	平成21年5月1日～7月12日
36	伝えるべきものー津田永忠の事績ー	平成21年10月3日～12月7日
37	閑谷学校の華ー武元君立・登々庵兄弟	平成22年2月24日～4月26日
38	焼物にかけた情熱ー伊部の三奇人 木村宗得・鈴木黄哉・藤原楽山	平成20年8月30日～10月19日
39	日生の歴史	平成23年1月19日～3月21日
40	日生を撮るⅡ	平成23年5月18日～7月18日
41	東備を治めた人々ー近世初頭まで	平成23年10月22日～12月24日
42	坂野鉄次郎・常善兄弟ー『郵便中興の恩人』と「海軍中将と」	平成24年3月23日～5月21日
43	里村欣三と文学仲間たち2	平成24年8月8日～10月8日
44	清近から玉舟五代の技ー細工から陶彫へ	平成25年1月10日～2月3日
45	東備の俳人Ⅱ	平成25年6月15日～8月17日
46	備前焼珍品展	平成25年11月13日～1月13日



(1)「学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産」の保存活用

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・谷口澄夫先生の研究 ・柴田一先生による研究 ・特別史跡旧閑谷保存管理計画書(県) 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉地克直先生による研究 ・特別史跡閑谷学校顕彰保存会「閑谷学校研究」 ・提案書「近世岡山の文化・土木遺産群—岡山藩郡代津田永忠の事績—(県三市一町)」 ・世界遺産暫定一覧表登載のための調査研究(市)
文化財の指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝「旧閑谷学校講堂」 ・国指定重要文化財建造物「閑谷神社」など4件24棟 ・国指定特別史跡「旧閑谷学校附椿山・石門津田永忠宅跡及び黄葉亭」 ・国登録有形文化財「閑谷学校資料館」 ・国指定史跡「岡山藩主池田家墓所」 ・国登録有形文化財「大多府元禄防波堤」 ・県指定史跡「閑谷焼窯跡」 ・史跡「山田方谷宅跡」 ・史跡「井田跡」 ・史跡「熊山蕃山宅跡」 	
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・林原美術館による「岡山藩主代々」の展示 ・岡山県立博物館による「江戸時代の教育と閑谷学校」 ・岡山市シティミュージアム「池田家文庫 絵図展 岡山藩の教育」 	<ul style="list-style-type: none"> ・閑谷学校 ・閑谷学校資料館 ・歴史民俗資料館常設展示
地域の人々の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・櫛の木街道 ・和気閑谷高等学校の高校生ボランティアガイド 	<ul style="list-style-type: none"> ・和気閑谷高等学校の高校生ボランティアガイド ・観光ボランティアガイド協会の史跡ガイド
将来取組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産暫定一覧表登載に向けての調査研究 ・世界遺産暫定一覧表登載に向けての「コミュニティ」「人材育成」などをテーマとした戦略検討 ・特別史跡旧閑谷保存管理計画に基づく業務 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>歴史文化基本構想策定ワークショップ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>閑谷学校世界遺産登録推進シンポジウム</p> </div> </div>	




(2)「備前焼を生み、栄えるまち」の保存活用

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・備前焼紀年銘土型調査・宮獅子調査 ・備前焼窯元佐藤家の調査 ・伊部南大窯跡・周辺発掘調査 ・医王山東麓窯跡群発掘調査 ・窯跡群分布調査 ・史跡伊部南大窯跡整備基本構想策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・窯跡群分布調査報告
文化財の指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定「備前陶器窯跡」 ・県指定重要無形文化財「備前焼製作技術」 ・(財)伝統的工芸品産業振興会認定の伝統工芸士 ・国県市指定「備前焼の資料」 ・市指定建造物「天保窯」 ・市指定無形文化財「備前焼の製作技術」 	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡「備前陶器窯跡」の追加指定
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・加子浦歴史文化館の企画展示 ・伊部南大窯跡発掘調査現地説明会 ・医王山東麓窯跡現地説明会 ・備前陶器窯跡指定記念シンポジウム ・歴史民俗資料館での企画展展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財管理センターでの展示 ・歴史民俗資料館の展示 ・岡山県備前陶芸美術館(民)での展示 ・藤原啓記念館(民)での展示 ・備前歴史フォーラム <p>* (民)は設立主体が財団等公立以外</p>
地域の人々の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・伊部地区「ポケットパーク」の整備 ・小さな国際交流都市による整備 ・街並整備2011 	<ul style="list-style-type: none"> ・備前焼まつり ・かべりだいまつ ・陶器市 ・観光ボランティアガイド協会による街並ガイド
将来取り組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的製作技術の調査・研究 ・史跡伊部南大窯跡整備基本構想に基づく実施計画の策定 ・伊部南大窯跡北側広場の活用 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>伊部南大窯跡北側広場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土管土留めの残る伊部の小経</p> </div> </div>	

(3)近代漁業発祥のまちと食文化

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・日生町誌 ・「加子浦の工業化」(岡山大学教育学部) ・「鹿久居島の歴史」 ・田淵屋甚九郎の研究(日生町文化財保護委員会) ・日生の観光と民俗(岡山民俗学会) ・日生町の文化財 ・日生のことば 	
文化財の指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・国登録有形文化財「大多府漁港元禄防波堤」 ・市指定史跡「燈籠堂石墨」 ・市指定史跡「大井戸」 ・市指定史跡「甚九郎顕彰碑」 ・市指定史跡「キリシタン遺跡」 ・市指定無形民俗文化財「投げ唄、車唄」 	
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・さわらまつり ・「海のミルクかき料理レシピ」刊行 ・「日生の昔ばなし」(郷土史研究会)刊行 ・写真集「日生諸島」(石原剛著)刊行 ・「日生の方言」(浜野博著)刊行 ・「日生を歩く」(前川満著)刊行 	<ul style="list-style-type: none"> ・加子浦歴史文化館資料館での常設展示 ・ひなせかき祭 ・源平放水合戦
地域の人々の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「日生の観光とキリシタン」(星尾正一著)刊行 ・「大多府島紀行」刊行(大多府小学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日生カキお好み焼き研究会の活動 ・まちあるき
将来取組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設での情報発信 ・ワークショップの開催や調査研究の深化 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>五味の市</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>加子浦歴史文化館の漁業に関する展示</p> </div> </div>	



(4) 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・吉永町の史跡案内 ・備前八塔寺案内 ・吉永町史 ・大滝山物語(丸尾弘然著) 	
文化財の指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・市指定史跡「山上伽藍八塔寺の旧跡」 ・市指定史跡「山上伽藍八塔寺の三重塔跡」 ・市指定石造美術「石子小(子)詰の塚」 ・市指定工芸品「銅鐘」 ・市指定歴史資料「八塔寺制札」 ・市指定天然記念物「ヒメボタル」 ・市指定天然記念物「コウヤミズキ自生地」 ・市指定天然記念物「モリアオガエル」 	
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと村の整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流ヴィラでの昔生活体験 ・八塔寺民俗資料館の公開 ・八塔寺山荘での日本家屋での宿泊 ・八塔寺ふるさと農園
地域の人々の取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・八塔寺ふるさと交流まつり ・八塔寺十一面観音菩薩立像の解体修理
将来取り組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・八塔寺の歴史の調査・研究の深化と調査方法の検討、成果の発信 ・八塔寺「ふるさと村」の情報発信 ・天然記念物の実態調査 	 <p>八塔寺と高顕寺</p>  <p>石小詰の塚</p>  <p>コウヤミズキ</p>



(5) 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・三石町史 ・岡山県近代化遺産総合調査報告(県) ・耐火煉瓦の町 岡山県三石町(岡山大学教育学部) 	
文化財の指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化遺産2次調査対象「三石耐火煉瓦株式会社事務所棟・煙突ほか」 ・近代化遺産2次調査対象「旧山陽鉄道 備前市三石付近のアーチ橋群」 ・近代化遺産2次調査対象「旧三石尋常高等小学校講堂」 ・近代化遺産2次調査対象「旧山陽鉄道 船坂トンネル」 ・近代化遺産2次調査対象「旧三石郵便局舎」 ・近代化遺産2次調査対象「旧山陽鉄道 備前市三石付近のアーチ橋群」 	
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回歴民企画展「山陽道と鏡石神社」 ・第28回歴民企画展「備前市の耐火物 耐火煉瓦発祥の地」 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史民俗資料館「耐火煉瓦」コーナー
地域の人々の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・Mプロジェクト協議会「町歩き」 ・三石城編集「三石城パンフレット」 	<ul style="list-style-type: none"> ・Mプロジェクト協議会「灯りのまち三石」 ・地域誌「三石城」 ・Mプロジェクト協議会「写真展」
将来取り組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化遺産の保存方法の検討 ・大人の工場見学(耐火煉瓦やクレー鉱業) <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">旧三石尋常高等小学校講堂と内部</p> <p style="text-align: right;">旧日本耐火煉瓦株式会社煙突 (現存せず)</p>	

(6)映画と文学、「心象風景」の残るふるさと

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・備前市歴史民俗資料館での企画展開催時の調査研究 ・加子浦歴史文化館での企画展開催時の調査研究 ・正宗白鳥顕彰保存会での取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・里村欣三顕彰会の調査研究
文化財の指定等	該当なし	該当なし
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・正宗白鳥公園整備 ・第4回歴民企画展「与謝野晶子・鉄幹と備前」展 ・第9回歴民企画展「東鶴山地区展 柴田錬三郎とふるさと備前」展 ・第13回歴民企画展「備前の俳人」展 ・第19回歴民企画展「みやびの系譜 正宗敦夫」展 ・吉備路文学館での備前ゆかりの文学者の企画展 ・岡千秋カラオケ大会 ・れきみんシアター 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴民常設展示文学コーナー ・加子浦歴史文化館常設展示
地域の人々の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原審爾顕彰碑 ・柴田錬三郎生家資料館整備 ・里村欣三顕彰碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原審爾の顕彰活動 ・柴田錬三郎生家公開 ・里村欣三の顕彰活動
将来取組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・備前ゆかりの文学者等の情報発信方法の検討 ・映画ロケ地巡りツアーの実施とロケ地候補の検討 ・素材「備前市」の積極的活用 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>小津監督「早春」のロケ地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>歴史民俗資料館の文学コーナー</p> </div> </div>	

(7) 交流と流通の要となった地

	過去に実施したもの	現在実施中のもの
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県近代化遺産総合調査報告(県) ・岡山県史 ・千軒遺跡調査報告書 ・日生町誌・吉永町史・片上町史・三石町史 ・伊部町史など 	<ul style="list-style-type: none"> ・備前市埋蔵文化財管理センターでの資料整理
文化財の指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡「丸山古墳」 ・市指定史跡「天神山古墳」 ・県重要遺跡「千軒遺跡」 ・県史跡「三石城跡」 ・市指定史跡「伝太閤門跡」 ・市指定史跡「播備前国境の標石」 ・市指定史跡「香登一里塚」 ・近代化遺産2次調査対象「香登教会」 ・近代化遺産2次調査対象「武用ゴロベエ商店」 	
公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史民俗資料館での企画展・講座 ・加子浦歴史文化館での企画展 ・吉永美術館での企画展 ・長縄手遺跡発掘調査現地説明会 ・まほろばウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・片鉄ロマン街道 ・日生鹿久居島古代体験の郷「まほろば」 ・各史跡を素材とした文化施設での企画展 ・備前歴史フォーラム
地域の人々の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・富田松山 城山まつり ・香登お歯黒研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・片上ウエルカムガイドの活動 ・熊山遺跡をテーマにした研究会等 ・地域誌「三石城」 ・片鉄ロマン街道ウォーキング
将来取組むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「交流・流通」をテーマとした調査研究の深化 ・「交流・流通」をテーマとしたワークショップの開催  <p style="text-align: center;">県史跡「三石城跡」</p>	 <p style="text-align: center;">備前歴史フォーラム2011</p>

第8章 備前市歴史文化基本構想の課題と今後の展開

1 課題

備前市歴史文化基本構想を策定した後の課題を以下の3点に整理してみたい。

①備前市歴史文化基本構想は、策定後がスタートであって、実施することが大切である。構想は奉っておくものではなく、内容に基づき着実に実施することによって成果につながる。メニューに従って様々な調査に着手してはじめて調査手法を開発できることもあるだろうし、逆に課題が浮き彫りにされることもあるだろう。試行錯誤を繰り返しながら、進めることも大切な視点と考える。「やってみて、進めてみて、考えてみて」がポイントである。

②構想を進める主人公は「その地域に住む人々」である。実際にこの構想に基づき様々な事業を進めていく際、行政は率先して旗を振るのではなく、地域の人々を主人公に、ゆるやかに進めていく必要がある。「ながく、ゆるく、ともに」がポイントである。

③最後に調査手法の開発という点である。悉皆的調査に基づくマクロ的な分析を通して課題が明瞭になるだろうが、その前提として「市民参加型の悉皆的調査方法の検討」を行う必要がある。この作業は行政があらかじめ細かなフレームを固めるのではなく、緩やかな大枠を設定する程度で事業を進めることが肝要である。「おおらかに、息苦しくなく、気楽に」がポイントである。

2 展開

この構想を着実に進めていくためには、第7章で提示したタイムスケジュールを着実に実施していくことが重要である。そのため2013年度から毎年度進行状況を管理し、外部の評価委員会等に実施状況を報告し、指導・助言を受ける必要がある。この報告を5年間積み重ねることにより、2017年度に予定している歴史文化保存活用区域の設定が可能になる。さらに評価委員会等が構想そのものの見直しを必要と判断した時点で随時、修正案を検討することも視野に入れる。

最後にパブリックコメントを受けて、この構想を進めていく際、最も大切な視点を確認する。

それぞれの地域には、それぞれ育んだ歴史がある。したがって、自分の住むまちの成り立ってきた過程を大切にすることは当然である。ただ、どうしても他の地域の歴史とくらべたくなる。場合によってはそれが地域間の利害関係に発展することもある。その時、地域の成り立ちは異なるのが当たり前であることに気付く。一方で行政は異なる地域で構成されている市域をまとめて共通の理念やスローガンでくくることをする。それはかなり困難なことである。そうすると最も根本的な部分でこの構想そのものの意味を問われることになる。

この構想では策定の過程で、その地域が成り立ってきた過程をできうるかぎり追ってきた。その地域、その地域の成り立ちを丁寧に考えてきた。それぞれの地域の成り立ち

に配慮し、ひろく、ゆるく、備前市の成り立ちを考えてきた。

その視点に立ちながら、お互いの地域を尊重しあい、理解しながら進めていく。

これがまちづくりのスタートとなるはずだ。

備前市歴史文化基本構想

平成 26 年 3 月

編集・発行 備前市教育委員会生涯学習課文化係
〒705-0021 岡山県備前市西片上 7
TEL (0869) 64-1841
FAX (0869) 64-4285
e-mail bzsyougai@city.bizen.lg.jp